

The logo for azbil, featuring the word "azbil" in a bold, red, lowercase sans-serif font.

人を中心としたオートメーション

**アズビル株式会社** 証券コード: 6845(東証1部)

## 2013年度(2014年3月期)決算説明会

### 〈アジェンダ〉

1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績
2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画
3. 株主の皆様への利益還元
4. 中期経営計画の進捗

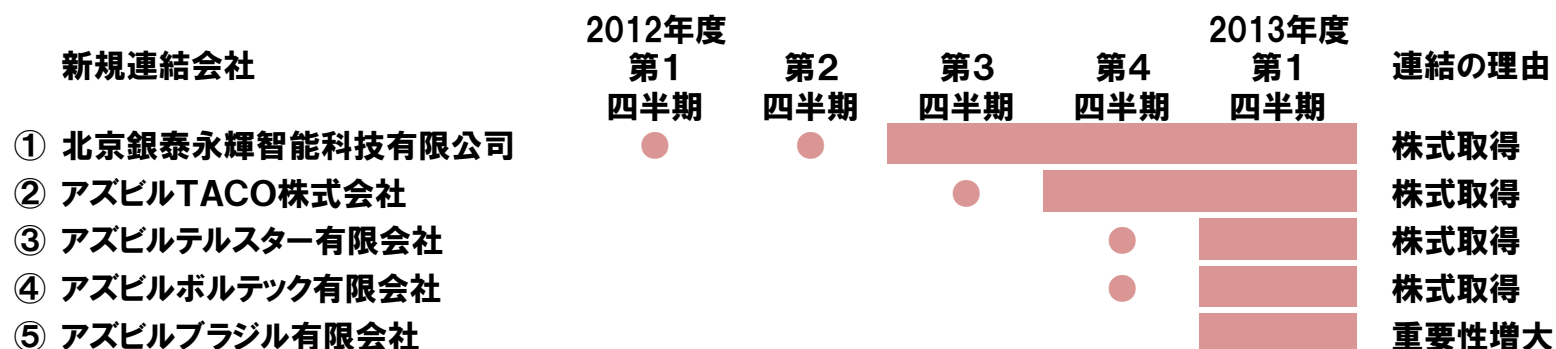
日時：2014年5月12日 16:00 - 17:00

場所：日本工業倶楽部

# 注記事項



- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しております。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しております。  
 B A: ビルディングオートメーション  
 A A: アドバンスオートメーション  
 L A: ライフオートメーション
- 3) 各セグメント別の金額には、セグメント間の内部取引が含まれております。
- 4) 2012年度より、従来「その他」に含めていた事業の一部(検査・測定機器の輸入・仕入販売)を、「AA事業」へ区分変更致しました。2011年度の数値につきましては、変更後のセグメント区分に組替えて記載しております。
- 5) 業績計画は、本資料発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により計画値と異なる場合があります。
- 6) 新規連結会社の状況は次の通りとなっております。表示期間以降に新しい連結会社はありません。



●: B/S連結(同時に新規連結時の受注残高を受注高に計上)

# 1. 2013年度(2014年3月期)連結業績

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 経営成績

- **【受注高】** 各事業とも増加。海外での伸長に加え、国内も増加。LA事業についてはアズビルテルスターの連結に伴い大きく伸長  
[対前年度]
- **【売上高】** 前年度比では、連結に伴い大きく伸長したLA事業を中心に各事業で増加。計画値をほぼ達成  
[対前年度/対計画]
- **【利益】** 退職給付費用※、のれん償却額の増加に伴う減益影響を増収及び売上高の構成比改善、体質強化による利益改善で補い、前年度比増益となり、計画を達成  
[対前年度/対計画] 当期純利益は、税制改正等による繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額の増加により前年度比で減少

[単位: 億円]

	当年度	前年度	対前年度		計画 (2013/11/1)	対計画	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	2,524	2,311	+212	+9.2			
売上高	2,484	2,275	+208	+9.2	2,500	△15	△0.6
国内	2,022	2,046	△23	△1.1			
海外	461	229	+231	+101.0			
売上総利益	865	778	+86	+11.1			
%	34.8	34.2	+0.6P				
販売費及び一般管理費 (内のれん償却額)	726 (18)	644 (13)	+81 (+5)	+12.7 (+37.7)	(18)	(+0)	(+3.8)
営業利益	139	134	+4	+3.7	137	+2	+1.5
%	5.6	5.9	△0.3P		5.5	+0.1P	
経常利益	145	145	+0	+0.2	132	+13	+10.6
税金等調整前当期純利益	145	140	+4	+3.2			
当期純利益	76	83	△6	△7.7	78	△1	△1.7
%	3.1	3.7	△0.6P		3.1	△0.0P	

※ 当年度において、国債金利の低下及び従業員構成の変動に対応して退職給付費用の増加(約12億円)が発生しております。

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 セグメント別 - BA事業



- **【受注高】** 国内既設建物分野において省エネ需要が拡大し、最適化ソリューション提案を中心に増加  
[対前年度]
- **【売上高】** 海外での事業伸長に伴い前年度比増収。計画比では、既設建物、サービス分野が堅調に推移したが新設建物分野の減少で未達  
[対前年度/対計画]
- **【セグメント利益】** 増収及び売上高の構成比改善、建物の施工収益性改善により前年度比増益となり、計画値を達成  
[対前年度/対計画]

[単位: 億円]

	当年度	前年度	対前年度		計画 (2013/11/1)	対計画	
			増減	増減%		増減	増減%
■ BA事業 受注高	1,084	1,057	+27	+2.6			
売上高	1,095	1,074	+21	+2.0	1,110	△14	△1.3
セグメント利益	105	101	+4	+4.3	104	+1	+1.9
%	9.7	9.5	+0.2P		9.4	+0.3P	
(ご参考) のれん償却額	1	0	+0	+100.0	1	-	-

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 セグメント別 - AA事業



- **【受注高】**  
[対前年度] 国内の装置メーカーを中心としたソリューション提案が好調。海外ではアジア・中国に加え米欧でも伸長し、国内海外ともに前年度比増加
- **【売上高】**  
[対前年度/対計画] 海外及び国内装置メーカー向けが好調で前年度比増収。計画比では、国内素材産業関連市場向けで厳しい状況が続き、ほぼ計画線にとどまる
- **【セグメント利益】**  
[対前年度/対計画] 増収及び原価率改善により前年度比増益となり、計画を上回る

[単位: 億円]

	当年度	前年度	対前年度		計画 (2013/11/1)	対計画	
			増減	増減%		増減	増減%
■ AA事業 受注高	931	866	+64	+7.4			
売上高	908	876	+31	+3.6	910	△1	△0.2
セグメント利益	39	36	+3	+8.8	36	+3	+10.2
%	4.4	4.2	+0.2P		4.0	+0.4P	
(ご参考) のれん償却額	3	0	+2	-	2	+0	+7.6

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 セグメント別 - LA事業



- **【受注高】** 新設LSE分野<sup>※1</sup>を中心にLA事業構成各分野とも増加し、全体として大きく拡大  
[対前年度]
- **【売上高】** LSE分野を中心に全体として前年度比大きく増加。ガス・水道分野で採算性重視の営業活動等により減収となったものの、住宅用全館空調システム分野及び健康福祉・介護分野では拡販施策の成果により伸長。計画比では、ガス・水道分野ならびに住宅用全館空調システム分野で計画を達成したが、LSE分野が若干想定を下回り、全体として未達  
[対前年度/対計画]
- **【セグメント利益】** ガス・水道メータ分野で利益が改善したが、全体としてはLSE分野を中心に体制整備費用や連結子会社ののれん償却費用の増加等の影響により前年度比減益となり、計画未達  
[対前年度/対計画]

[単位: 億円]

	当年度	前年度	対前年度		計画 (2013/11/1)	対計画	
			増減	増減%		増減	増減%
■ LA事業 受注高	526	※2 401	+125	+31.2			
売上高	495	339	+156	+45.9	500	△4	△0.8
セグメント利益	△6	△3	△2	-	△3	△3	-
%	△1.4	△1.2	△0.2P		△0.6	△0.8P	

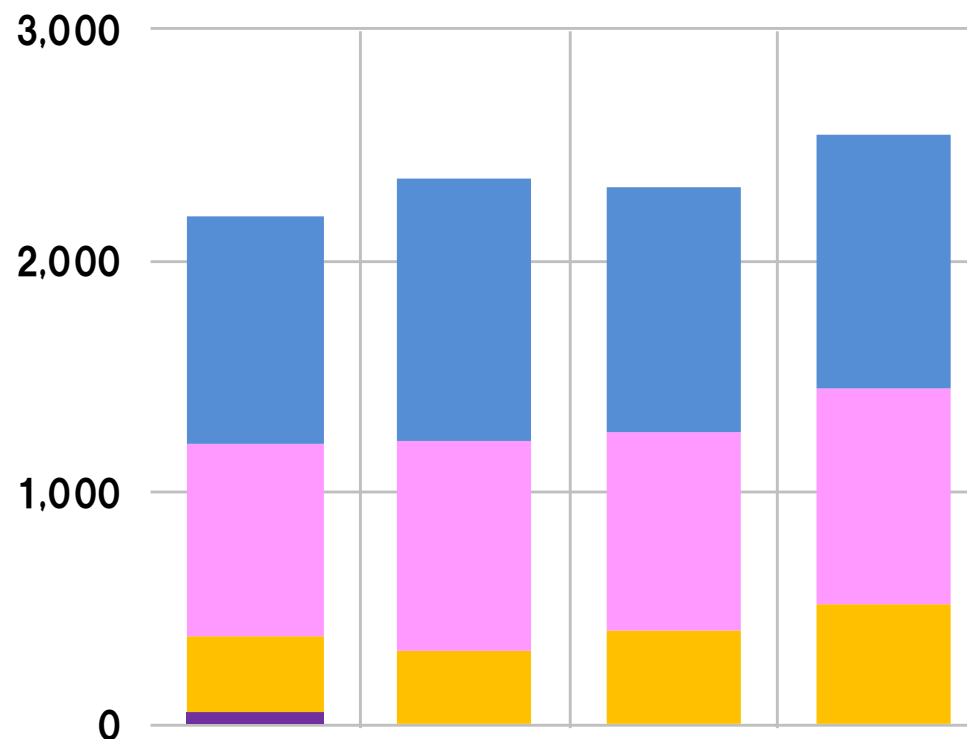
(ご参考) のれん償却額	※3 13	12	+1	+10.7	13	-	+3.4
--------------	-------	----	----	-------	----	---	------

※1 2013年1月に設置したライフサイエンスエンジニアリング分野のこと(主に海外連結子会社のアズビルテルスター)

※2 アズビルテルスターを前年度末に新規連結したため、同社の受注残高(62億円)を前年度の受注高に計上しております。(売上高は当年度より計上。)

※3 当年度より、アズビル金門ののれん償却額は半減しております

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 [参考] セグメント別受注高 推移



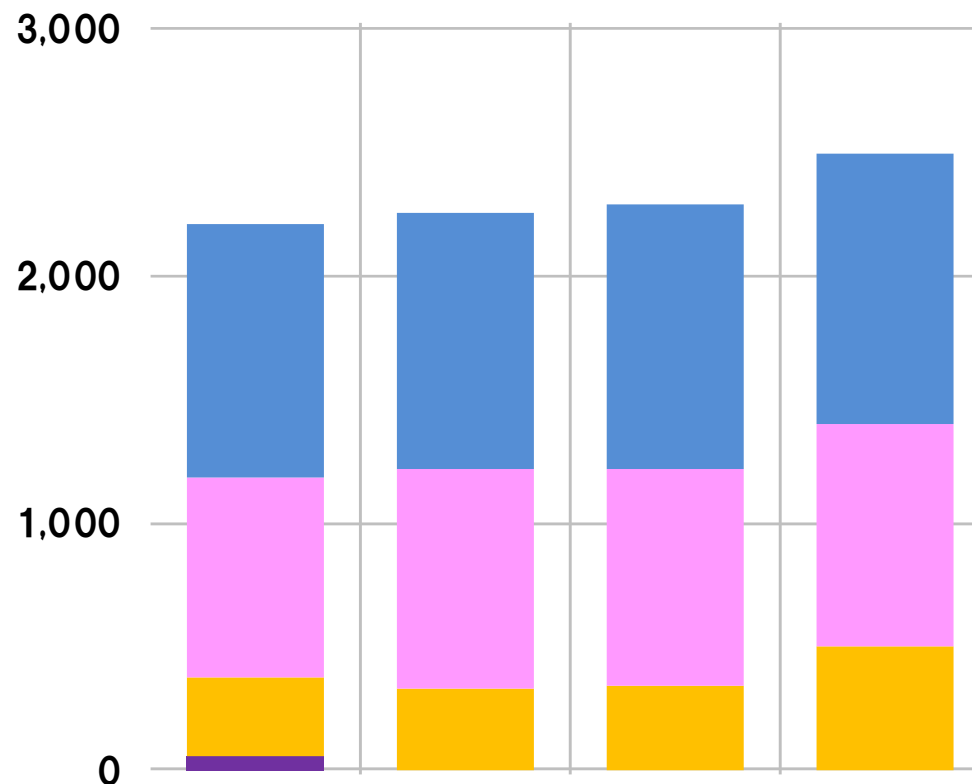
年 度	2010	2011	2012	2013
■ BA事業	972	※1 1,133	1,057	1,084
■ AA事業	829	898	866	931
■ LA事業	327	324	※2 401	526
■ その他	61	0	0	0
連 結	2,173	2,339	2,311	2,524

※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しております。

※2 アズビルテルスターを2012年度末に新規連結したため、同社の受注残高(62億円)を同年度の受注高に計上しています。



# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 [参考] セグメント別売上高 推移



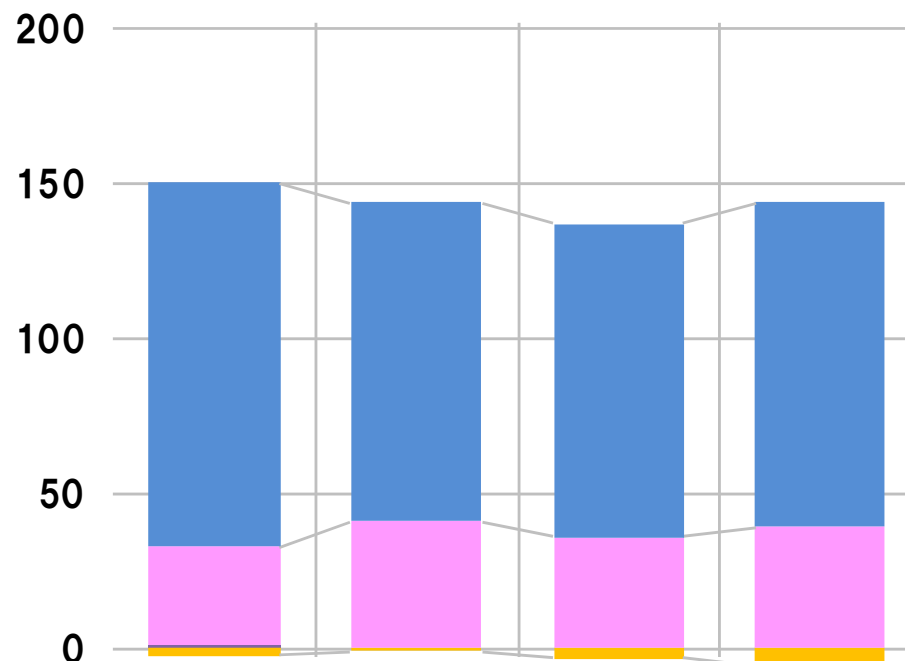
[単位: 億円]

年度	2010	2011	2012	2013
BA事業	1,021	1,038	1,074	1,095
AA事業	809	888	876	908
LA事業	326	325	339	495
その他	51	0	0	0
連結	2,192	2,234	2,275	2,484

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



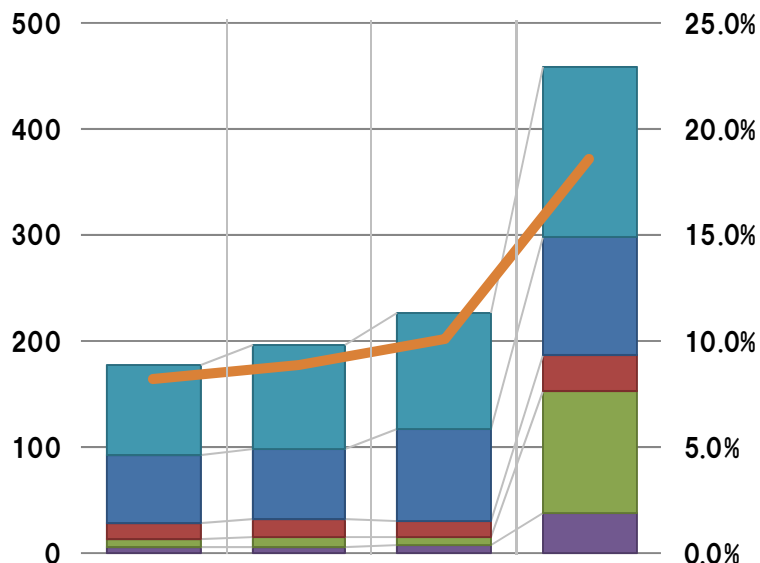
年度	2010	2011	2012	2013
■ BA事業	117	103	101	105
■ AA事業	32	41	36	39
■ LA事業	△2	△1	△3	△6
■ その他	1	△0	0	0
連結	148	143	134	139

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 海外エリア別売上高



[単位: 億円]

- LA事業に欧州、アジア、その他地域（中南米等）に展開するLSE事業が加わり、全体として大きく伸長
- 従来地域・市場においても、為替による影響も含めて着実に増収
- 海外売上高比率は倍増し18.6%



年度	2010	2011	2012	2013
アジア	86	99	111	160
中国	63	66	86	112
北米	16	17	15	34
欧州	7	8	8	115
その他	6	6	7	37
連結	180	198	229	461

(ご参考)

海外売上高%	8.2%	8.9%	10.1%	18.6%
期中平均レート(USD)	87.79	79.79	79.81	97.73
期中平均レート(EUR)	116.28	111.11	102.56	129.78

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。  
 ※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しております。

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 財政状態



- 資 産 前期末日が休日であったことの影響により現金及び預金が増加した他、受注増加に伴う棚卸資産の増加や株式相場の上昇による投資有価証券の増加等により、総資産は前年度比100億円増加
- 負 債 会計方針の変更に伴い退職給付に係る負債が増加したことに加え、仕入債務の増加、賞与引当金の増加等により前年度比62億円増加
- 純資産 退職給付会計変更による減少要因が発生したが、当期純利益の計上に伴う利益剰余金増加や為替換算調整勘定の増加等により前年度末比37億円増加

[単位: 億円]

	当年度末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当年度末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
<b>流動資産</b>	<b>1,893</b>	<b>1,817</b>	<b>+76</b>	<b>負債</b>	<b>1,084</b>	<b>1,022</b>	<b>+62</b>
現金及び預金	524	484	+39	流動負債	873	828	+45
受取手形及び売掛金	882	888	△ 6	仕入債務	414	405	+9
棚卸資産	181	165	+16	短期借入金・社債	154	133	+20
その他	305	279	+26	その他	304	288	+15
<b>固定資産</b>	<b>640</b>	<b>617</b>	<b>+23</b>	固定負債	211	193	+17
有形固定資産	245	246	△ 1	長期借入金・社債	22	45	△ 22
無形固定資産	129	126	+3	その他	188	148	+39
投資その他の資産	266	244	+22	<b>純資産</b>	<b>1,449</b>	<b>1,411</b>	<b>+37</b>
				株主資本	1,393	1,362	+31
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	171	171	-
				利益剰余金	1,142	1,111	+31
				自己株式	△ 26	△ 26	△ 0
				その他の包括利益累計額	39	28	+11
				新株予約権・少数株主持分	16	21	△ 4
<b>資産合計</b>	<b>2,534</b>	<b>2,434</b>	<b>+100</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>2,534</b>	<b>2,434</b>	<b>+100</b>

(ご参考) 自己資本比率: 当年度末 56.5%、前年度末 57.1%

# 1. 2013年度(2014年3月期) 連結業績 キャッシュフローの状況



- 営業活動によるキャッシュ・フローが前年度並みとなった中、投資活動によるキャッシュ・フローは子会社株式の取得に伴う支出があった前年度から比べると増加となり、フリーキャッシュフローは51億円と前年度比28億円の増加
- 財務活動によるキャッシュ・フローは配当支払いと借入金返済等により69億円のマイナス。上記の株式取得に際し新規借入れをおこなった前年度比で44億円の減少

[単位: 億円]

	当年度	前年度	対前年度	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	150	+8	+5.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△106	△127	+20	-
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	51	22	+28	+125.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△69	△24	△44	-
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	8	+6	+83.1
現金及び現金同等物の増減額	△2	6	△8	△137.5
現金及び現金同等物の期首残高	560	553	+6	+1.3
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	0	0	+0	-
現金及び現金同等物の期末残高	558	560	△2	△0.4

(ご参考)

設備投資	53	31	+21	+69.9
減価償却費	37	36	+1	+2.8

## **2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画**

## 2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画 業績計画



- 前年度の好調な受注を背景に、これまでに整備した事業基盤を活用し、グローバル(国内外)での事業成長を計画する
- 国内事業においては、需要回復が見込める市場での受注・売上を確実に取り込むとともに、建物、工場、ライフラインでのサービスを含む省エネ施策や計装提案等で新たな成長を見込む
- 海外事業においては、引き続き着実な需要が見込まれるローカル建物、素材産業・装置メーカー向け事業の伸長及びアズビルテルスターを中心としたLSE事業の体質改善の成果を見込む

[単位: 億円]

	上期	下期	通期	2013年度	対前年度	
					増減	増減%
売上高	1,160	1,440	2,600	2,484	+115	+4.7
営業利益	34	121	155	139	+15	+11.5
%	2.9	8.4	6.0	5.6	+0.4P	
経常利益	32	118	150	145	+4	+2.7
当期純利益	16	69	85	76	+8	+10.8
%	1.4	4.8	3.3	3.1	+0.2P	

## 2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画



# セグメント別売上高、セグメント利益

- B A 国内新設建物及び既設建物の分野での売上伸長を見込む。海外においても、ローカル建物市場での拡大を継続的に見込み、全体で増収、増益を計画
- A A 海外での着実な売上拡大に加えて、装置メーカーを中心とした国内市場の回復と事業領域拡大の取り組みで増収、増益を見込む
- L A LA事業を構成する各事業分野において拡大を計画。ガス・水道メータの分野における継続的な事業・業務構造変革の効果とアズビルテルスターの事業体質改善により損益面で改善を見込む

[単位: 億円]

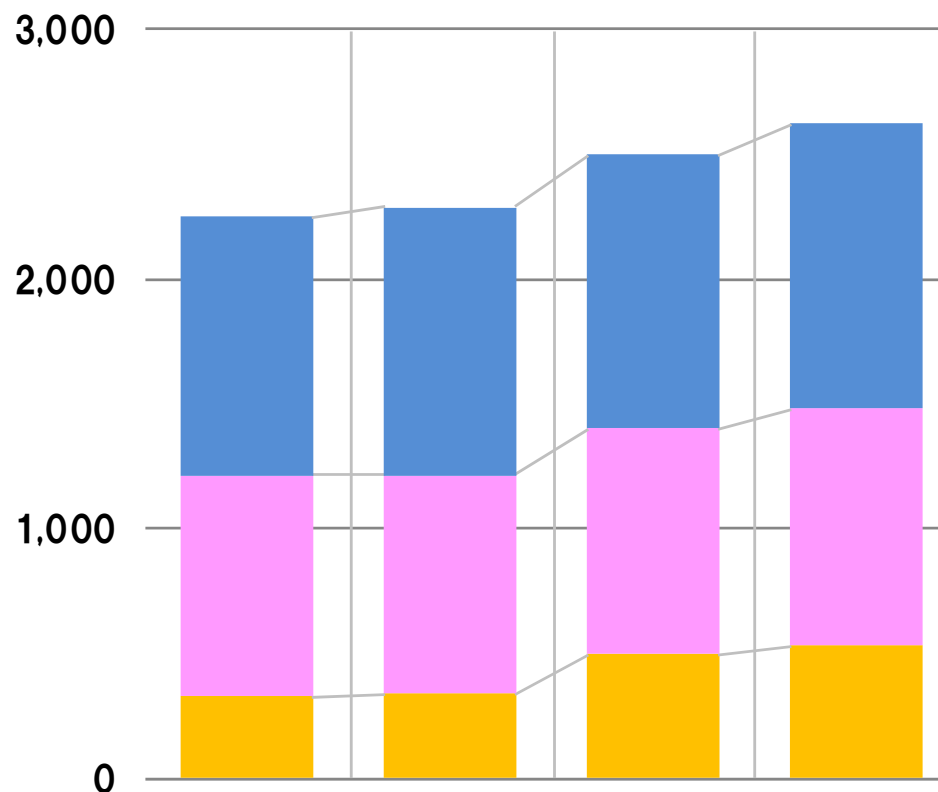
		上期	下期	通期	2013年度	対前年度	
						増減	増減%
■ B A事業	売上高	460	680	1,140	1,095	+44	+4.0
	セグメント利益	17	94	111	105	+5	+4.8
	%	3.7	13.8	9.7	9.7	+0.1P	
■ A A事業	売上高	450	500	950	908	+41	+4.6
	セグメント利益	19	27	46	39	+6	+16.0
	%	4.2	5.4	4.8	4.4	+0.5P	
■ L A事業	売上高	260	270	530	495	+34	+6.9
	セグメント利益	△ 2	0	△ 2	△ 6	+4	-
	%	-	-	-	△ 1.4	-	
連結	売上高	1,160	1,440	2,600	2,484	+115	+4.7
	営業利益	34	121	155	139	+15	+11.5
	%	2.9	8.4	6.0	5.6	+0.4P	



## 2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移

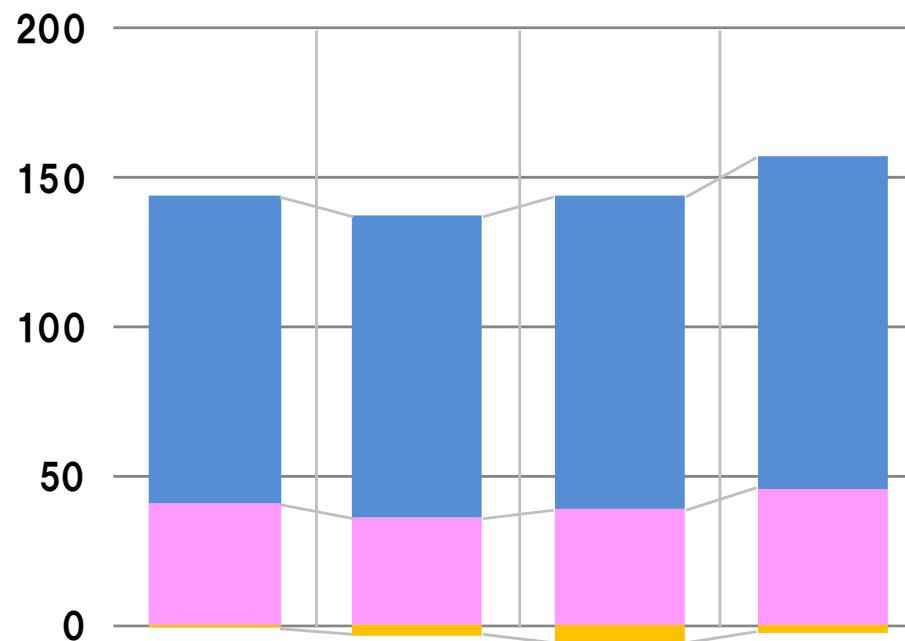


[単位: 億円]



年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ BA事業	1,038	1,074	1,095	1,140
■ AA事業	888	876	908	950
■ LA事業	325	339	495	530
連結	2,234	2,275	2,484	2,600

## 2. 2014年度(2015年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]

年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ BA事業	103	101	105	111
■ AA事業	41	36	39	46
■ LA事業	△ 1	△ 3	△ 6	△ 2
連結	143	134	139	155

### **3. 株主の皆様への利益還元**

### 3. 株主の皆様への利益還元 配当金



- 株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率・純資産配当率の水準向上に努めつつ、安定した配当を維持する
- 2013年度(期末配当)※、2014年度(中間配当/期末配当)は以下の通り計画する

※ 2013年度配当は期初公表から変更ありません

	2013年度		2014年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	31.5	31.5(計画)	31.5(計画)	31.5(計画)
配当性向	60.7%		54.7%	
純資産配当率 (DOE)	3.3%		3.2%	

(ご参考) 当年度末(2014年3月31日)時点 配当利回り 2.5%

## 4. 中期経営計画の進捗

# 中期経営計画（2013～2016年度）概括

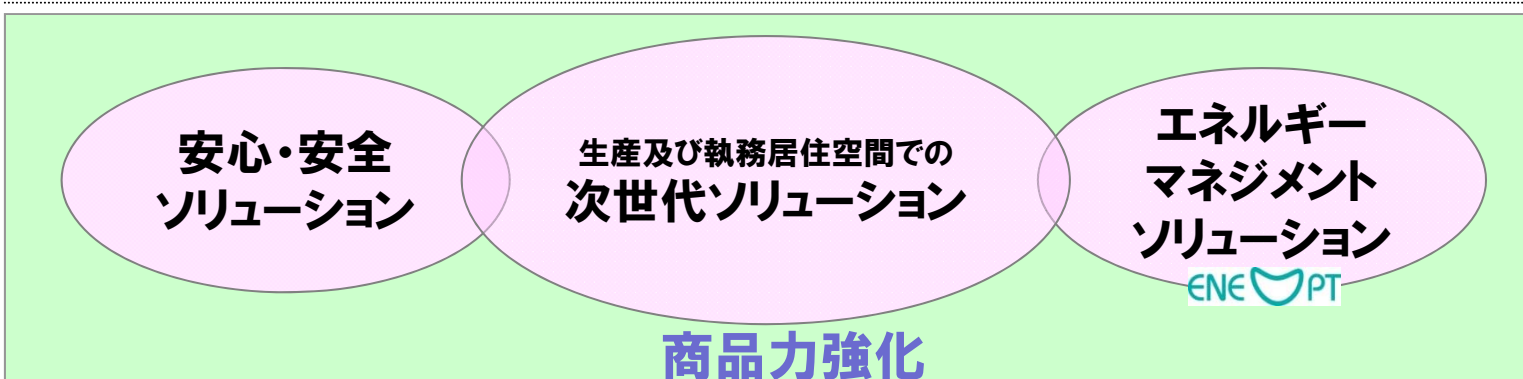
2016年度 売上高 2,800億円、営業利益 220億円

3つの  
基本方針

人を中心としたオートメーションで

- 技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」へ
- 地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」
- 体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」を目指す

3つの  
成長事業  
領域



3つの  
企業体質  
強化

- グローバル生産・開発の構造改革
- エンジニアリング、サービス事業の構造改革
- 人材リソース改革

事業活動  
の基盤

CSR経営、健全な財務基盤とコーポレートガバナンスの確立  
グループ理念「人を中心としたオートメーション」

## 4. 中期経営計画の進捗

# 中期経営計画初年度の進捗状況



### 2013年度について

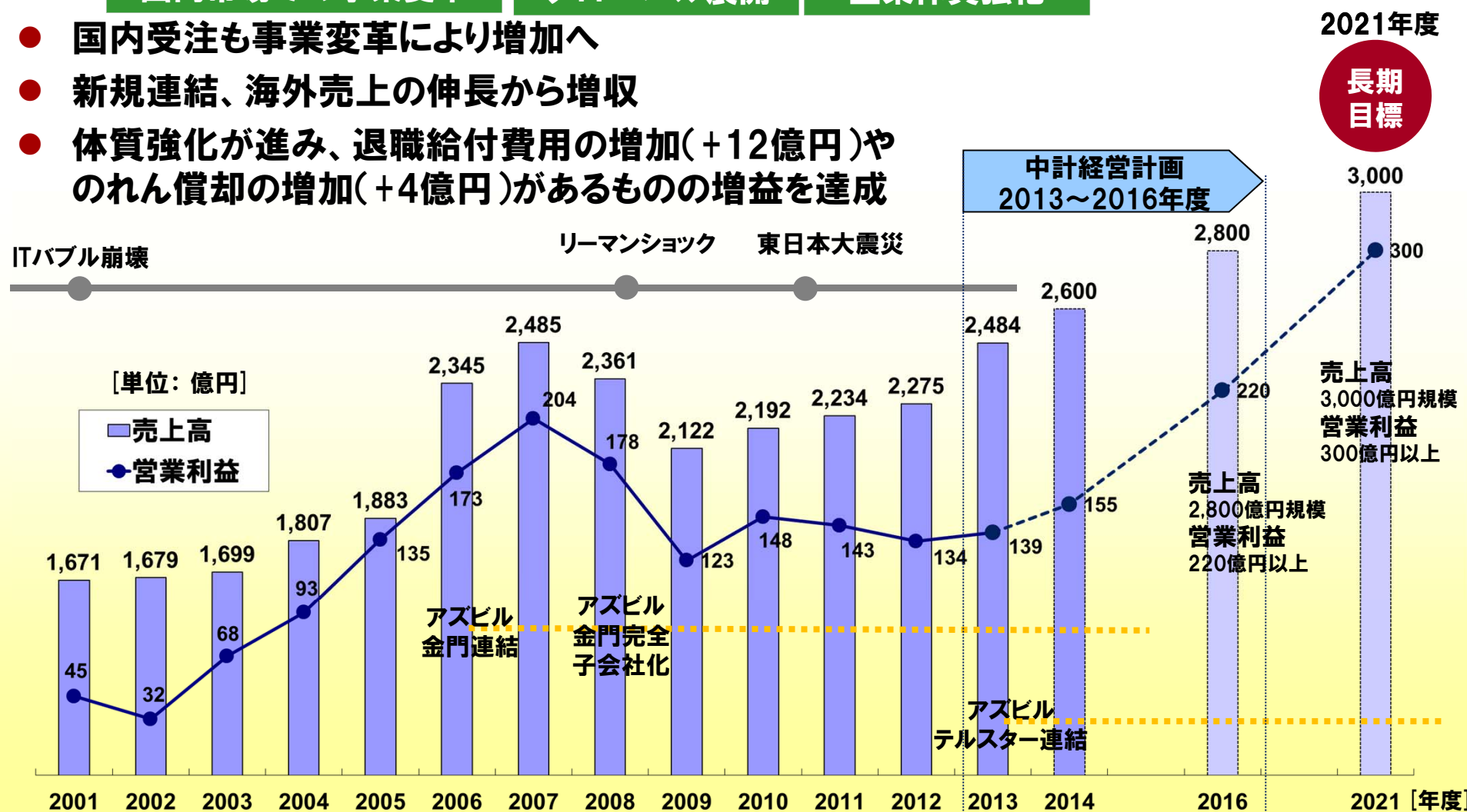
- 中期経営計画の初年度として、施策が着実に進捗し、業績面においても計画を達成

国内市場での事業変革

グローバル展開

企業体質強化

- 国内受注も事業変革により増加へ
- 新規連結、海外売上の伸長から増収
- 体質強化が進み、退職給付費用の増加(+12億円)やのれん償却の増加(+4億円)があるものの増益を達成



#### 4. 中期経営計画の進捗

# BAビルディングオートメーション事業



## 事業環境

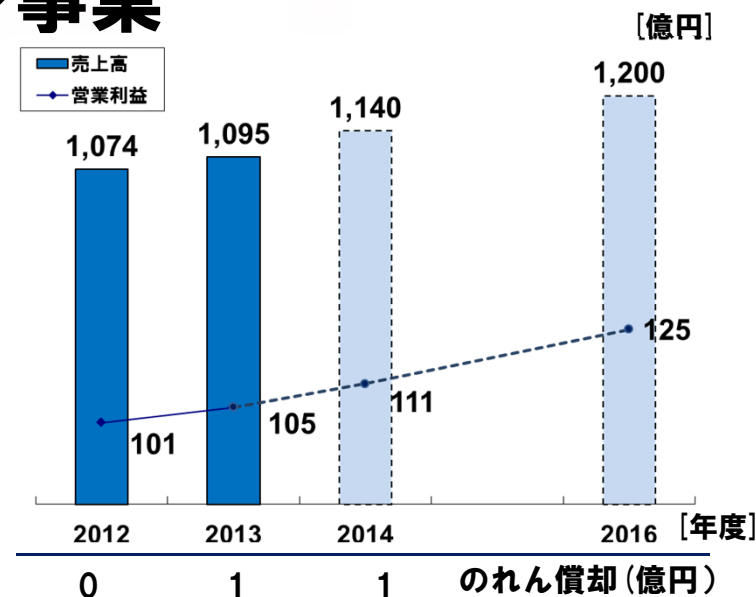
- 長年の実績による安定的な改修、サービス需要
- 電気料金の値上げ等により、既設建物改修への投資が活発化
- アベノミクス、オリンピック東京招致の影響から建築市場が活性化
- 東南アジア市場が活性化し、省エネが実需化

## 基本施策

- 設備を含めた省エネ改修等の高度な省エネ事業領域を拡大
- 高付加価値サービスメニューの拡充、プロセス改善と体制整備で国内の需要変化に対応
- 省エネ事業モデルを特徴とした海外市場展開、及びこれを支えるグローバルネットワークの構築

## 進捗状況

- **拡大する建物改修需要に確実に対応するための技術開発、体制整備**  
エネルギー計測からデータに基づく対策施工、継続的な省エネ効果測定サービスを一貫して提供できる事業インフラ(データベース構築・データ分析組織)の強化、及び事業間異動を含む人員配置、エネルギー管理士等の専門家育成
- **海外での現地ランドマーク案件の獲得及びサービス基盤の構築(リモートメンテナンスサービスの海外展開)**





## 4. 中期経営計画の進捗

# AA アドバンスオートメーション事業

azbil

### 事業環境

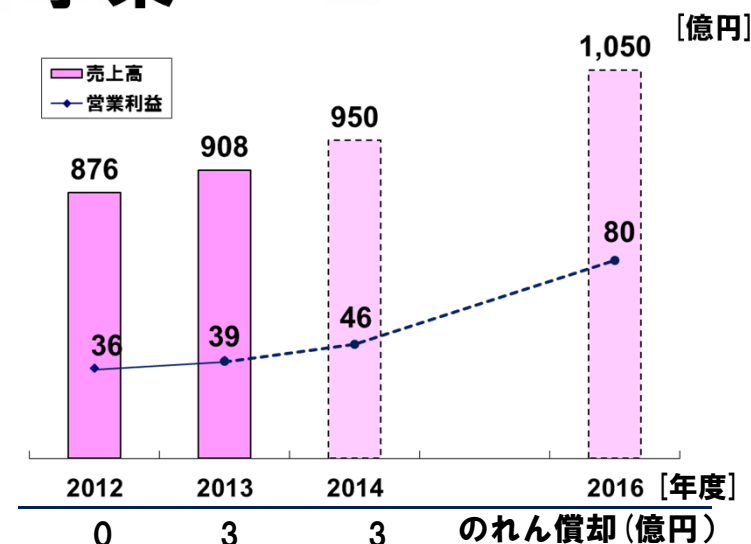
- 国内は成熟化市場に位置するが、エネルギー分野、装置・設備の高付加価値化、安全分野で新規需要
- 国内製造業の海外シフトが継続・加速
- 新興国におけるプラント需要拡大と日本を含む先進装置メーカーにおける高度管理・制御需要

### 基本施策

- 成熟事業領域の効率化と成長領域へ人員をシフト・強化
- 製品・技術・サービスを基盤としたライフサイクル事業モデルで国内事業開拓、グローバルに展開
- グローバルでバルブ事業領域の拡大と商品ポートフォリオの強化

### 進捗状況

- サービス主体の高付加価値エンジニアリングサービス事業の拡大
- 新製品投入及び関連した計装提案からメンテナンスサービスまでの総合力で加工組立産業市場（HA/FA※領域）を開拓 ※ HA(ハイブリッドオートメーション)、FA(ファクトリーオートメーション)
- 海外におけるソリューション型バルブメンテナンス事業拡大  
他社バルブメンテナンスを含めたバルブ事業を展開。アジア地域・中東にメンテナンスセンター、工場整備



## 4. 中期経営計画の進捗

# AA事業、azbilならではの市場開拓



日本が強い先端市場、安定した内需が見込める市場をazbilならではの強み（品揃え、多面的顧客接点、エンジニアリングからメンテナンスサービスまでのライフサポート力）を活かして開拓

### エンドユーザ

- 電機電子・半導体
- 自動車
- 化学（下流）

～ 日本が強い先端市場 ～

- 食品
- 薬品

～ 安定した内需市場 ～

国際競争に勝ち抜くための技術革新と高い製品品質への要求と要素技術変化への対応

製品の品質・安心・安全（フードディフェンス等）と法制強化への対応

製造装置納入

### 装置メーカー

半導体・電気電子部品製造装置、塗装／成形装置、押出ライン（高機能フィルム、繊維、医療部材）、包装出荷ライン（ホットメルトパッケージ等）

エンドユーザニーズの把握と装置開発への反映

**加工組立産業 HA/FA領域**  
(Hybrid / Factory Automation)

### システムソリューション

- 製造管理
- 品質マネジメント
- 入退出管理
- エンジニアリング
- メンテナンス等

- ネットワーク計装モジュール
- 各種センサ（温度・圧力・流量・レベル・位置・形状）

### 計測・制御ソリューション

- 現場課題解決策を反映した各種センサ、次世代システムの投入を行い国内成長市場の起点とする

azbil  
グループ

現場の課題解決と装置へのフィードバック

## 4. 中期経営計画の進捗

# LA ライフオートメーション事業

### 事業環境

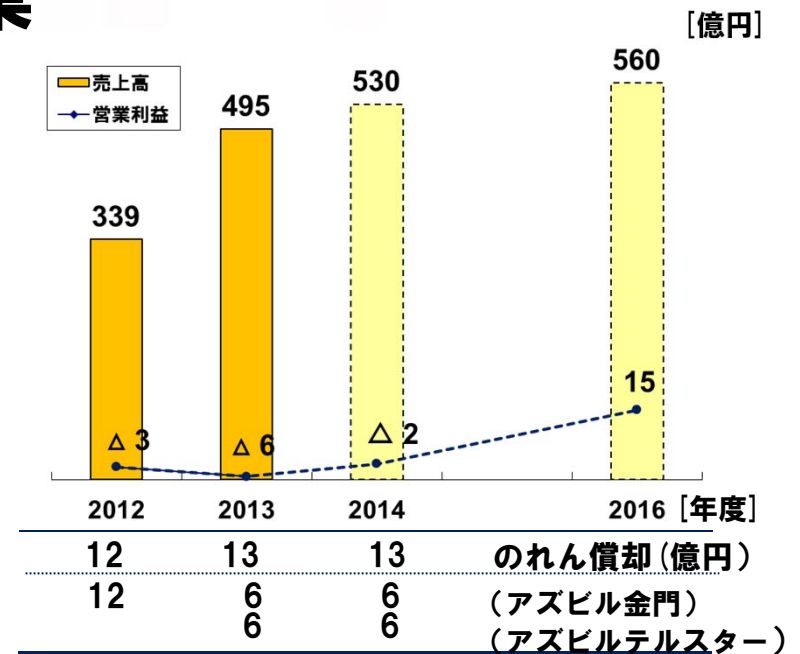
- BA/AA事業（設備投資関連）と異なるサイクルを持つ安定もしくは成長領域
  - ▶ 法定による安定的なガス・水道メータ更新需要
  - ▶ 製薬装置・設備へのグローバルでの需要の増加
  - ▶ 住宅市場、高齢者向けサービス

### 基本施策

- エネルギー供給ライン（ガス・水道）でのソリューション事業展開 [アズビル金門]
- グローバルでの製薬装置・設備市場への事業展開 [アズビルテルスター]
- 注文住宅向け全館空調市場の開拓 [アズビル]
- 健康福祉・介護分野における総合サービス事業の展開 [アズビルあんしんケアサポート]

### 進捗状況

- ガス・水道メータ分野の体質改善と事業領域（エネルギー供給ライン、民間市場）拡大
- アズビルテルスター買収によるライフサイエンスエンジニアリング事業への参入
- 住宅用全館空調システム、製品開発、営業・ジョブ処理体制を強化。新製品投入で事業拡大
- 新たな定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを開始し、対応する人員・体制を強化



※ アズビル金門、アズビルテルスターののれん償却額は内数。主たるものとして参考表記。アズビル金門ののれん償却は2015年3月末で終了

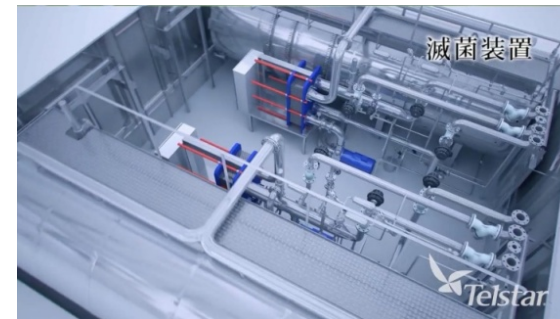
## 4. 中期経営計画の進捗

# LA事業、グローバルでの事業変革



### ■ ライフサイエンスエンジニアリング事業

医薬品や高機能食品等の市場に向けて、アズビルテルスターの製造プロセスの知見・装置技術とazbilのオートメーション技術の融合によって、より安全な現場環境（クリーンルーム等）と高い生産性の提供を目指すソリューション事業



滅菌装置（アズビルテルスター装置例）

2013年度 売上高:157億円（LA事業売上高の約30%）

※ 現地会計基準で、アズビルテルスターの営業利益は黒字であるが、連結におけるのれん償却負担、買収後の整備費用等からアズビルの連結ベースでは初年度営業損。事業構造変革、体質強化を進め、収益性を改善する

### アズビルテルスター

ライフサイエンスエンジニアリング事業の中核。製薬企業向け生産ラインのワンストップソリューションプロバイダー。凍結乾燥機、滅菌装置、純水装置等の生産ライン装置の開発・製造・エンジニアリング、設計、サービスから製造・品質管理基準（GMP）等の規格コンサルティングまでを実施

#### 特徴

欧州・中南米・アジア地域におけるバイオ医薬品、抗がん剤、ジェネリック等の製薬プロセス向けの装置・ワンストップソリューションに強み

## 4. 中期経営計画の進捗

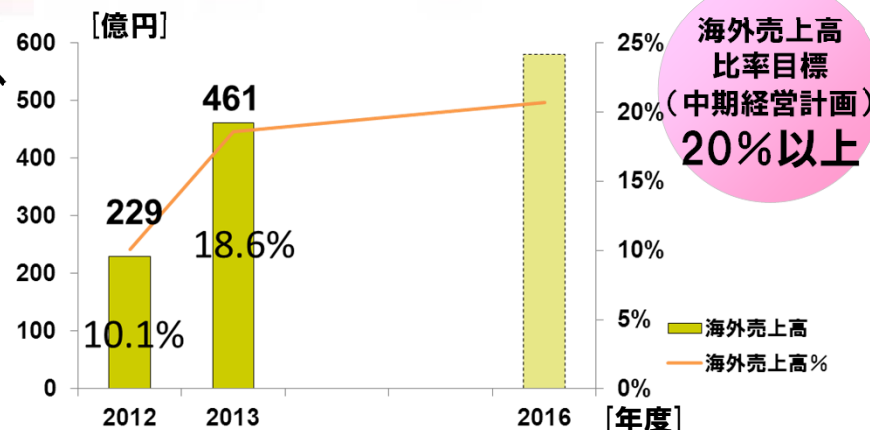
# グローバル展開（質的な転換と地域の拡大）

### 質的な 転換

日系企業への販売や機器類の販売から、ローカル企業への販売、ソリューション提案へと事業内容が変化

### 地域の 拡大

現地法人の設立、開発、エンジニアリング、サービス網の整備を実施



BA

### 現地ランドマーク建物の受注拡大

- 海外ランドマーク案件獲得が進展。省エネ実需によるソリューション事例も拡大

### リモートメンテナンスを含む海外サービス基盤の構築・拡大

- 国内で培ったサービスノウハウを活かした海外サービスモデルの基盤整備が進み、遠隔監視契約も順次拡大

AA

### ソリューション型バルブ事業拡大

- バルブの製品供給とメンテナンスを一括して行うバルブ事業を展開。アジア地域にメンテナンスセンターを整備。中東、米国に拡大予定

### 現地設計カスタマイズ力の強化

- 装置メーカー向け計装ソリューション体制の整備で事業拡大

### 新製品及び買収による商品ポートフォリオ強化

- アズビルボルテック(渦流量計)、アズビルTACO(空気圧技術・商品)の国内・アジア地域におけるazbilグループでの販売拡大

LA

### ライフサイエンスエンジニアリング事業への参入

- アズビルテルスターを傘下に、質的な転換(医薬品等のライフサイエンスエンジニアリング分野への参入)と地域の拡大(欧州、中南米、アジア)



#### 4. 中期経営計画の進捗

### 学習する企業体～企業体質(事業基盤)の継続強化

グローバルで最適な生産・調達・ロジスティクス体制の整備と地域の顧客特性に合わせたカスタマイズ力の強化が進む

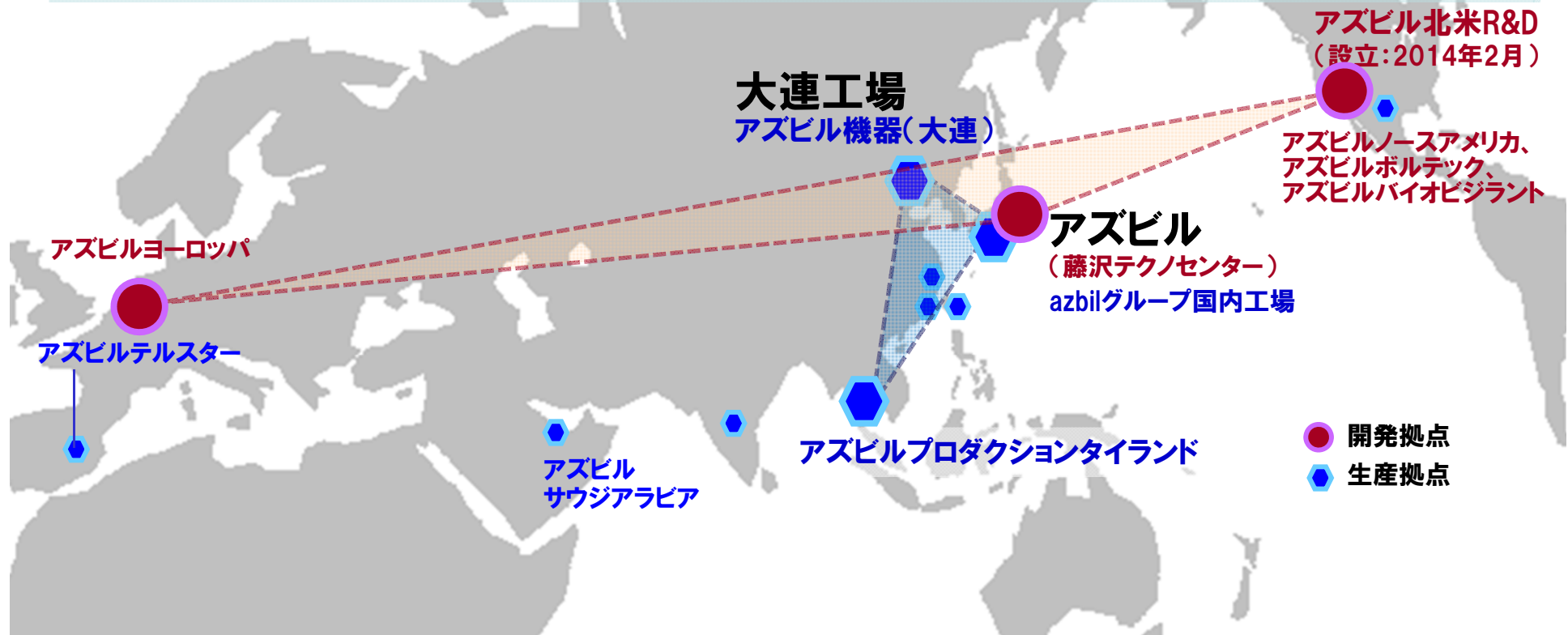
**生産**

最適生産体制: 基盤工場と顧客現地ニーズへの対応  
 ～ アズビルプロダクションタイランド生産開始、アズビルサウジアラビア工場建設 等

**開発**

装置メーカー向け開発体制: 欧州、米国、アジア及び日本

アズビル北米R&D設立: 基礎技術力強化、先端技術を応用した製品開発等



## 4. 中期経営計画の進捗

# 学習する企業体～企業体質(事業基盤)の継続強化

日本を含めたグローバルでの事業展開を支える人材育成・再配置が進展

**人材**

アズビルアカデミーによるキャリア開発、人材育成教育プログラムが充実

### ● ソリューション型人材の育成

- 技術スペシャリスト制度
- 資格取得支援
- 階層別教育/スキル(職能)教育

### ● グローバル人材の育成

- マネージャー教育(国内外社員向)
- スキル(職能)教育(国内外社員向)
- 英語(WEB/短期海外派遣)

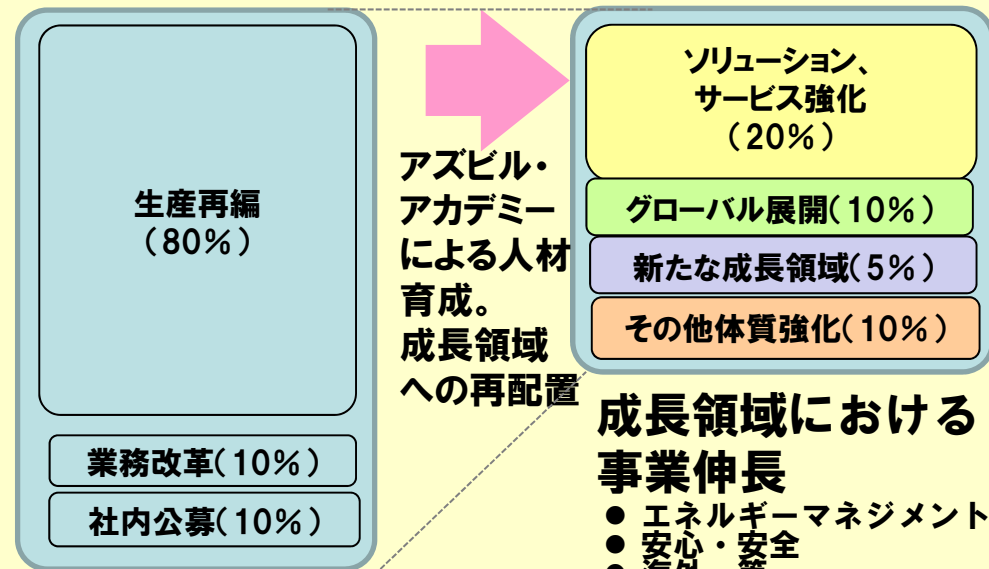
参考: 海外人員比率 約28%  
(2013年度末)

### ● グループ全体での最適配置

- キャリア開発
- 職種転換教育

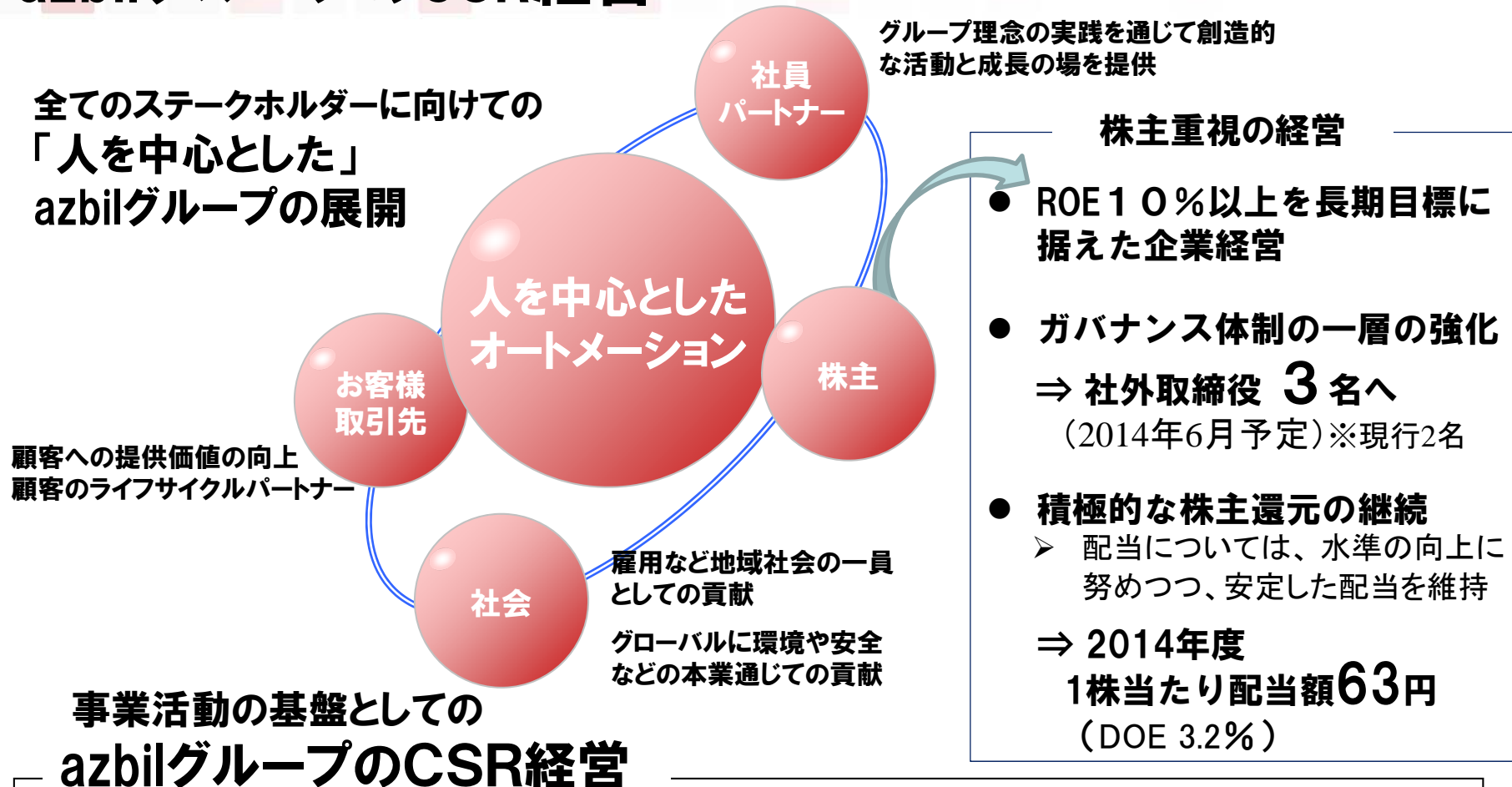
人材最適配置状況(国内):生産シフトと成長領域への人材配置

2012～2013年度対象  
約330名



※ 比率(%)は人数構成比率  
※ 定年、定時社員の契約満了等により約半数が減少

## 4. 中期経営計画 azbilグループのCSR経営



- 自らの活動と共に本業を通じて顧客のCO2削減・省資源に貢献し、地球環境保全に資する
- リスク管理の行き届いた経営と高いコンプライアンス風土の育成
- 内部統制、会計等の国内外グループ会社のガバナンス強化
- 健全な財務基盤とコーポレートガバナンスの確立



#### 4. 中期経営計画の進捗

### 中期経営計画の進捗まとめ

#### グローバル（国内外）での成長を目指す

- **日本国内の市況及び構造変化へ着実な対応**  
事業間を超えたしなやかな対応体制、アズビルグループの顧客接点、提供機能、技術、体制を活かしたソリューションの提供。
- **グローバルでの事業展開の加速**  
実績のある事業・商品（製品・サービス）をグローバルに展開
- **次世代商品の開発、市場投入**  
「人を中心としたオートメーション」のコンセプトに基づく次世代商品の開発、投入

	2013年度(実績)	2014年度(計画)	2016年度(計画)
売上高	2,484 億円	2,600 億円	2,800 億円
国内	2,022 億円		2,230 億円
海外	461 億円		580 億円
営業利益	139 億円	155 億円	220 億円

〔セグメント別〕		2013年度(実績)	2014年度(計画)	2016年度(計画)
BA事業	売上高	1,095 億円	1,140 億円	1,200 億円
	営業利益	105 億円	111 億円	125 億円
AA事業	売上高	908 億円	950 億円	1,050 億円
	営業利益	39 億円	46 億円	80 億円
LA事業	売上高	495 億円	530 億円	560 億円
	営業利益	△ 6 億円	△ 2 億円	15 億円

## 補足資料

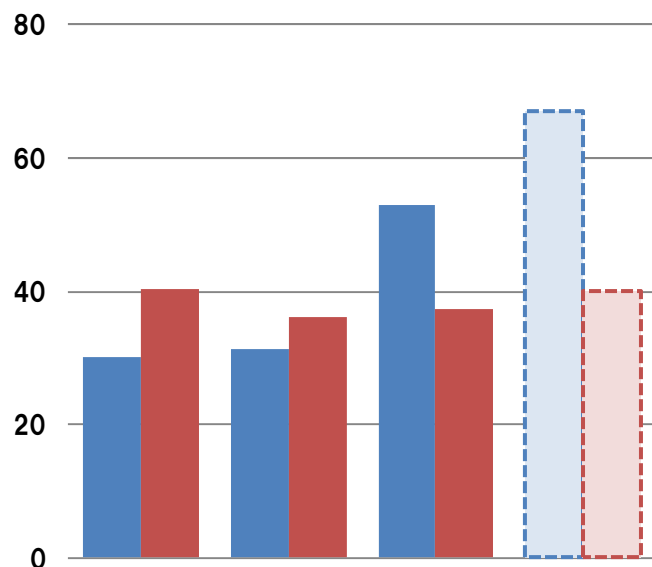
補足資料

# 設備投資・減価償却費／研究開発費



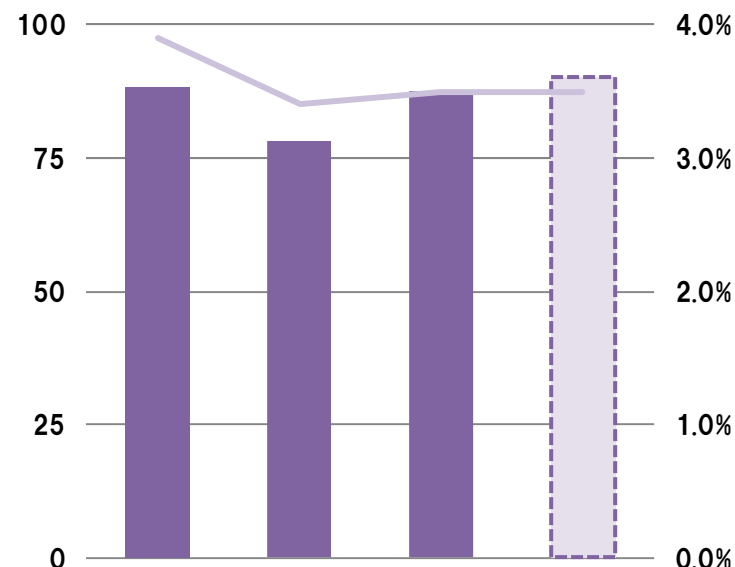
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費

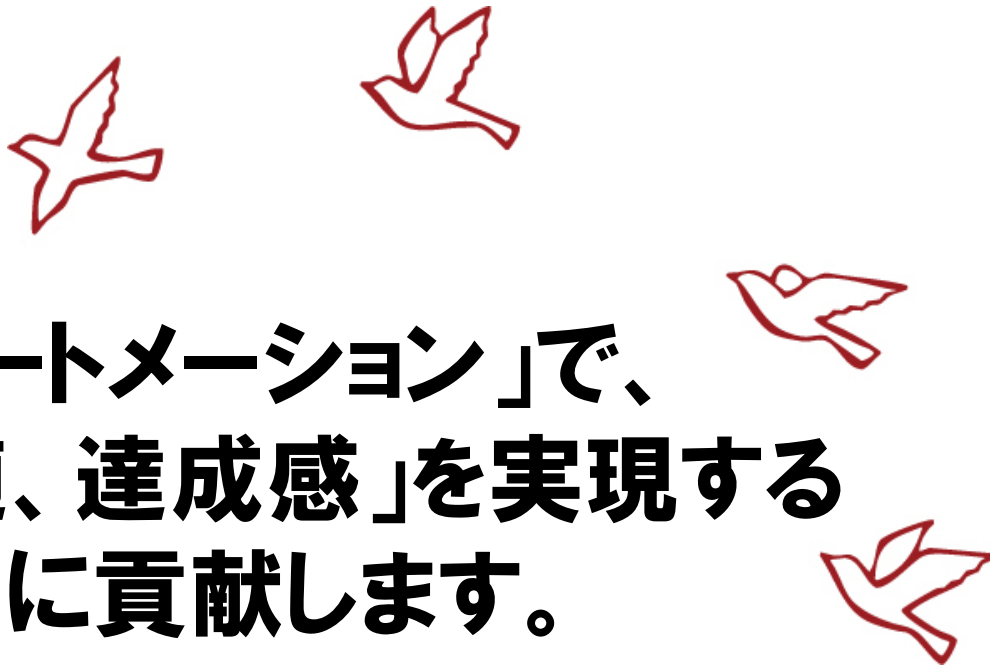


年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ 設備投資	30	31	53	67
■ 減価償却費	40	36	37	40

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2011	2012	2013	2014 (計画)
■ 研究開発費	88	78	87	90
— 研究開発費率	3.9%	3.4%	3.5%	3.5%



azbilグループは、  
「人を中心としたオートメーション」で、  
人々の「安心、快適、達成感」を実現する  
とともに、地球環境に貢献します。

<お問い合わせ>

アズビル株式会社  
グループ経営管理本部  
IR室

電話: 03-6810-1031  
メール: [azbil-ir@azbil.com](mailto:azbil-ir@azbil.com)  
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>